

白馬村総合戦略

(素案)

平成27年 月

白馬村

第1 人口ビジョン

1 はじめに

(1) 人口ビジョンの位置づけ

白馬村人口ビジョンは、本村における人口の現状を分析し、人口に関する村民の認識を共有したうえで、今後目指すべき将来の方向性と人口の将来展望を提示するものです。

(2) 人口ビジョンの対象期間

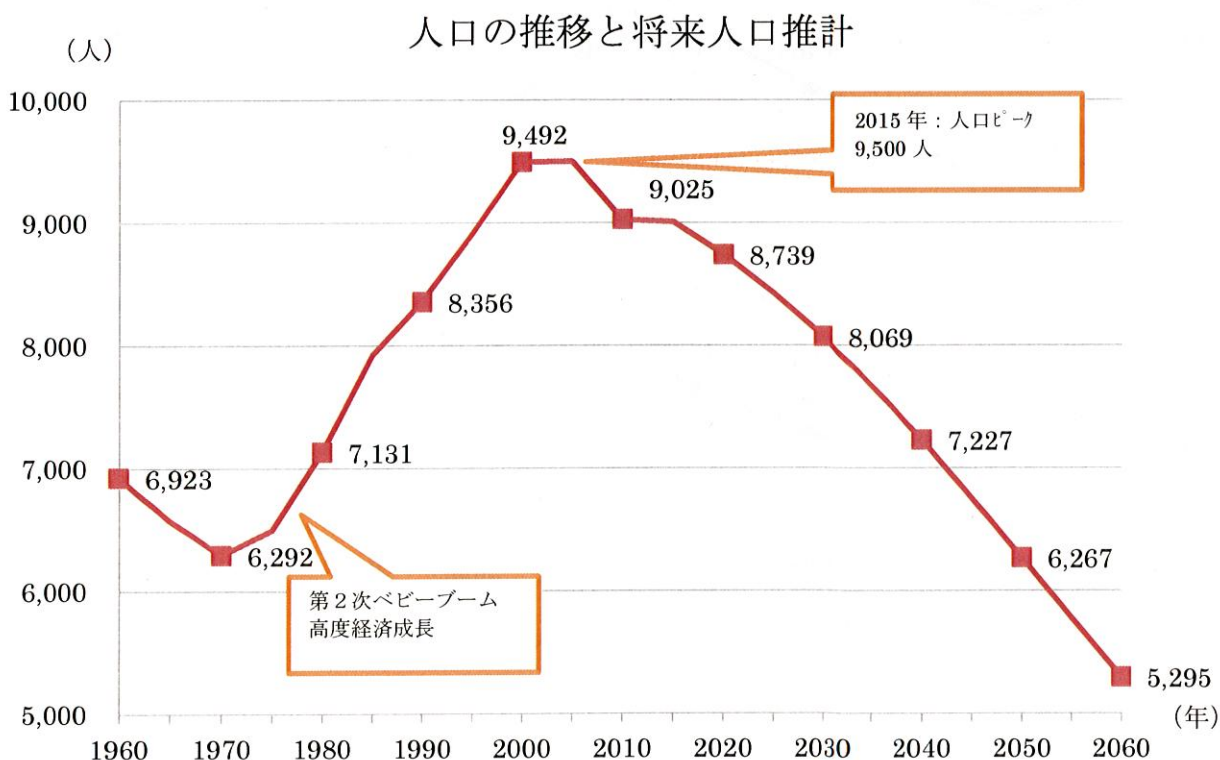
白馬村人口ビジョンの対象期間は、国の長期ビジョンを踏まえ、2060（平成72）年までとし、長期的な視野に基づいた展望を示します。

2 人口の現状分析と将来推計

(1) 人口の動向分析

ア 総人口の推移と将来推計

1960年から1970年にかけて人口の減少が見られたが、1970以降の人口は増加しています。その後、2005年の9,500人をピークに人口の減少が始まり、2050年には、1970年の水準まで落ち込むことが予想され、2060年には、現在より4割程度人口が減少し5,295人と推計しました。



イ 年齢3区分別人口の推移と将来推計

①年少人口

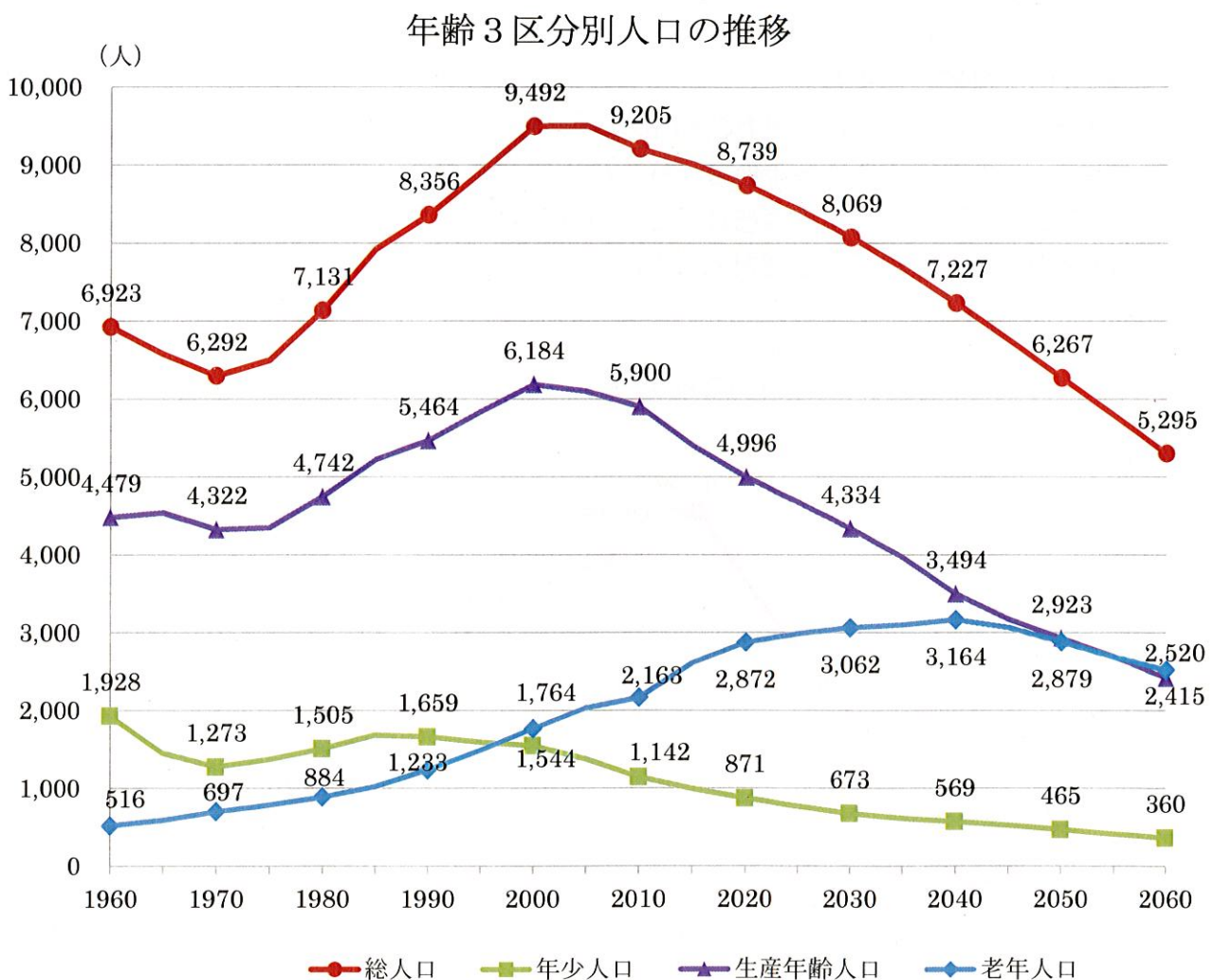
総人口の減少ペースが比較的緩やかと推計していますが、年少人口の減少スピードは県平均より速いことから、高齢化率の上昇圧力が比較的強いことが予想されます。

②生産年齢人口

総人口のグラフと、ほぼ同じ曲線を描き推移し、2000年の6,184人をピークに減少局面を迎えます。

③老年人口

全国有数の観光資源を有し知名度の高い本村は、域外からの移住人口に支えられ、2040年までは上昇ペースが続いていますが、総人口が減少していることを踏まえれば高齢化率が加速度的に上昇することが危惧されます。



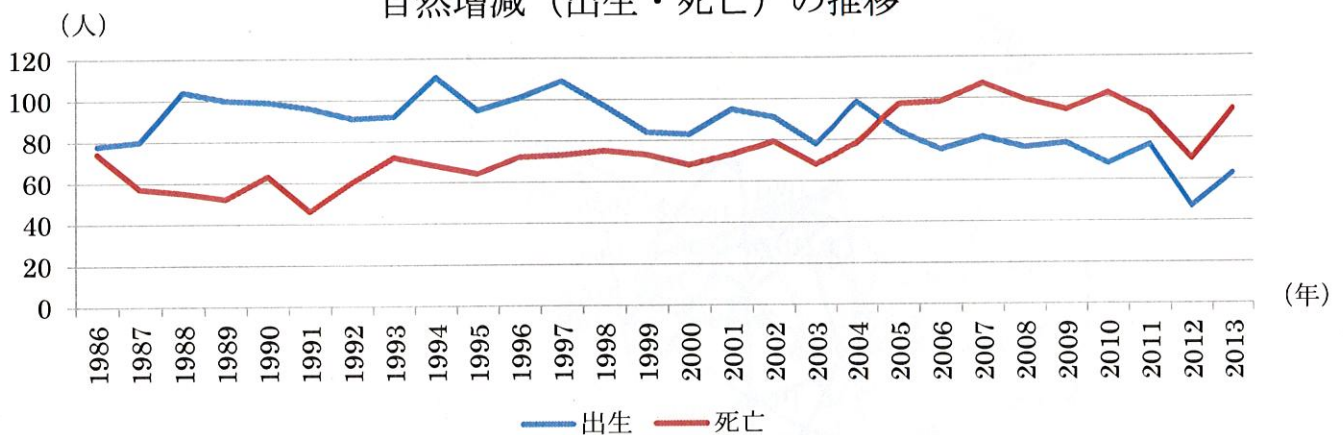
ウ 出生、死亡、転入及び転出数の推移

自然増減では、1986以降、出生数が死亡数を上回る増加基調が続いてきたが、2005年に初めて死亡数が出生数を上回り自然減に転じることとなり、その後もその傾向が続いています。

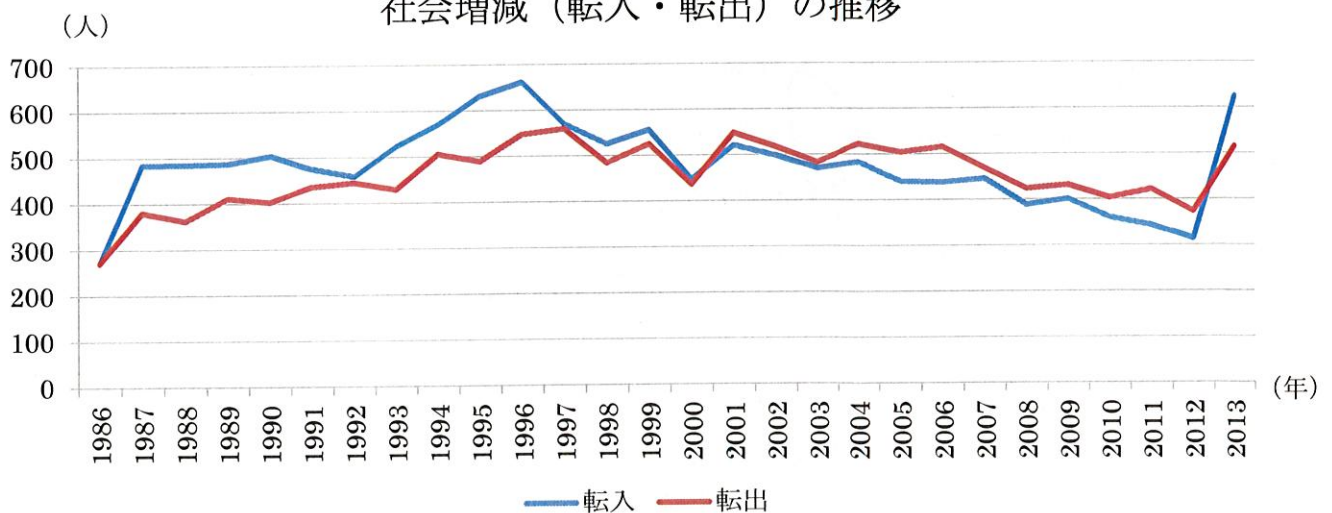
社会増減でも転入数が、転出数を上回り推移してきており、転入超過が100人を超える年も見られましたが、2001年に転出超過に転じました。

社会減の状況となった2001年以降、自然増減と社会増減を合わせても人口減少の状況続いています。

自然増減（出生・死亡）の推移



社会増減（転入・転出）の推移

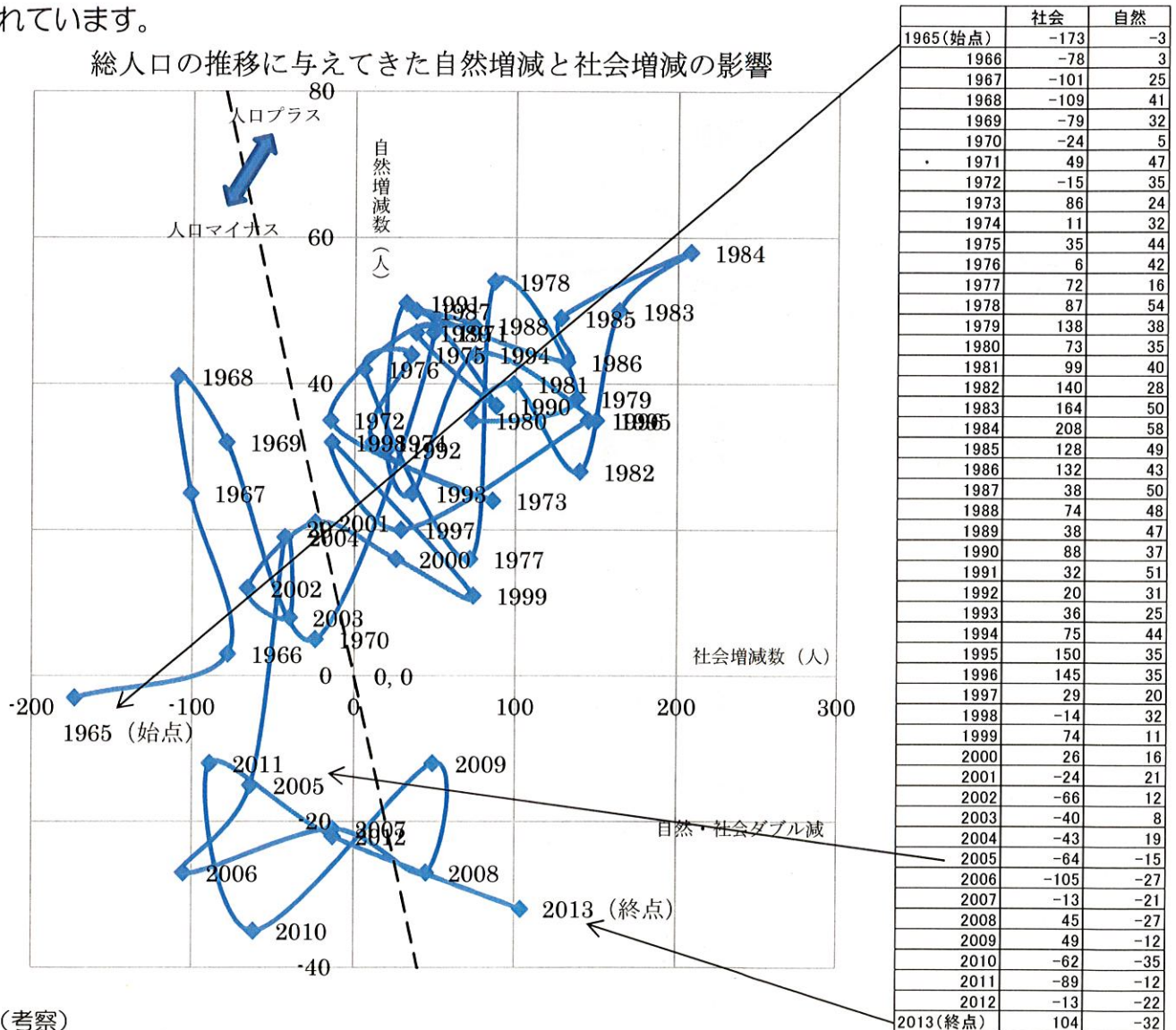


エ 自然増減と社会増減の影響

1965年から1972年まで「社会」減が続いたが、1973年以降は社会・自然とも増加基調を辿っています。

観光産業が比較的堅調だった1970年代から1990年代初頭までは、大幅な社会増が続き、平均寿命の延伸等による自然増と相俟って人口のプラス局面が続きました。

2001年から社会減、2005年から社会・自然のダブル減を迎えるなど厳しい局面が続きましたが、2013年には社会増となるなど人口動態の傾向に僅かながら変化の兆しが表れています。



(考察)

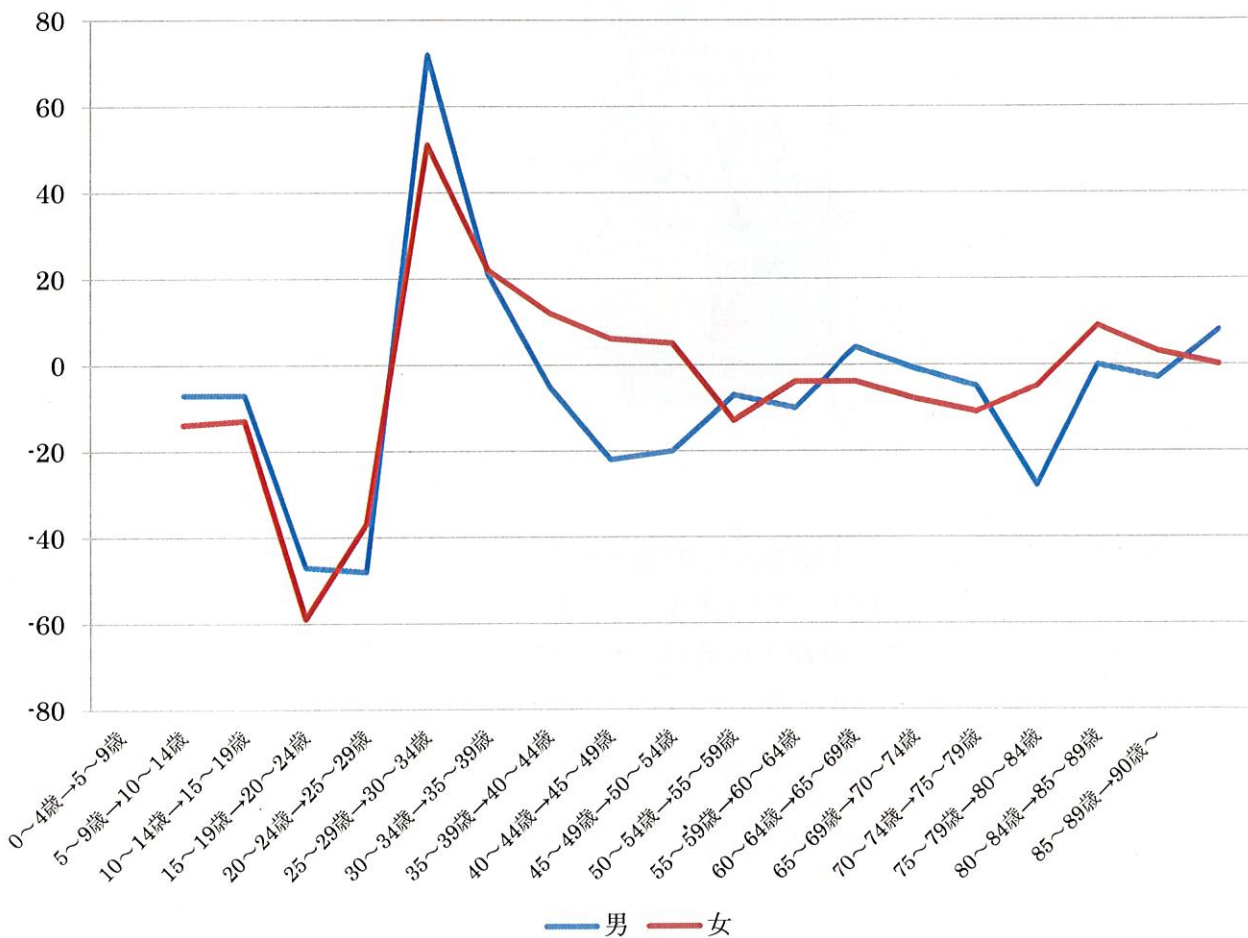
1960年代は高度経済成長を背景とした生産年齢人口の都市部流出増の影響を受けたものの、1970～1980年代は白馬村の主力産業である観光産業（とりわけスキー観光）が急成長し、安定的な社会増をもたらした。しかし、1998年の長野冬季オリンピック以後、スキー人口は減少し、若者のスキー離れが観光産業に暗い影を落とすはじめ、観光宿泊業を中心に雇用環境が悪化を始める。以降、観光産業の回復が進まない中、2001年には社会減に、2005年には社会・自然のダブル減局面に突入する。しかし近年のインバウンド観光の施策推進が奏功し、外国人観光客（スキーヤー等）が堅調に増加したことで、白馬村の観光産業の好況が下支えされ、2013年の大幅な社会増に結び付いた可能性がある。

才 年齢階級別人口の社会増減移動数

高校・大学進学、就職等に伴い20代前半で一旦流出に転じる傾向は大北管内の他市町村と同様ですが、スキー・登山などの山岳観光地としての知名度の高さを背景に、20代後半の男女がともに大きく流入しているのが特徴的です。

年齢段階の後半で移動率がゼロ水準に収斂されるのは、年齢が後段階に至るに従い定着率が高まる人口動態の一般的な形態を示すものです。

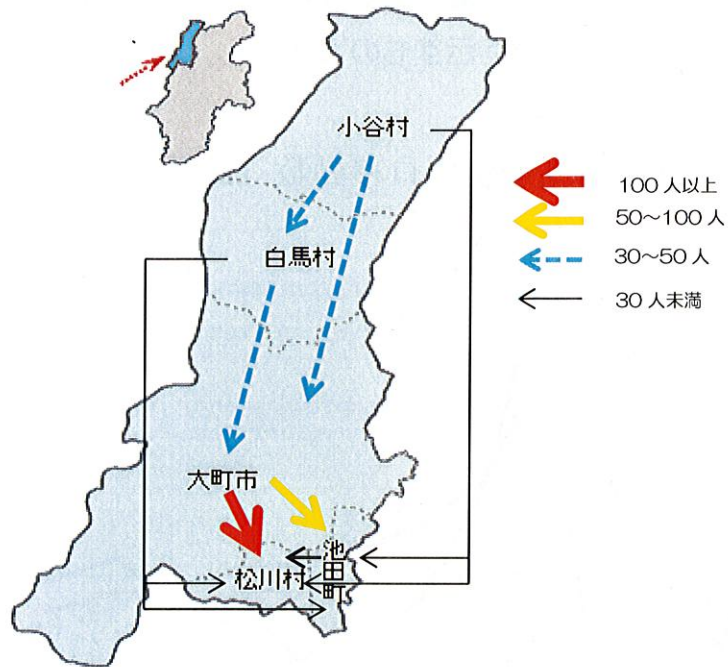
年齢階級別人口移動数（2005-2010）



カ 大北圏域における人口移動

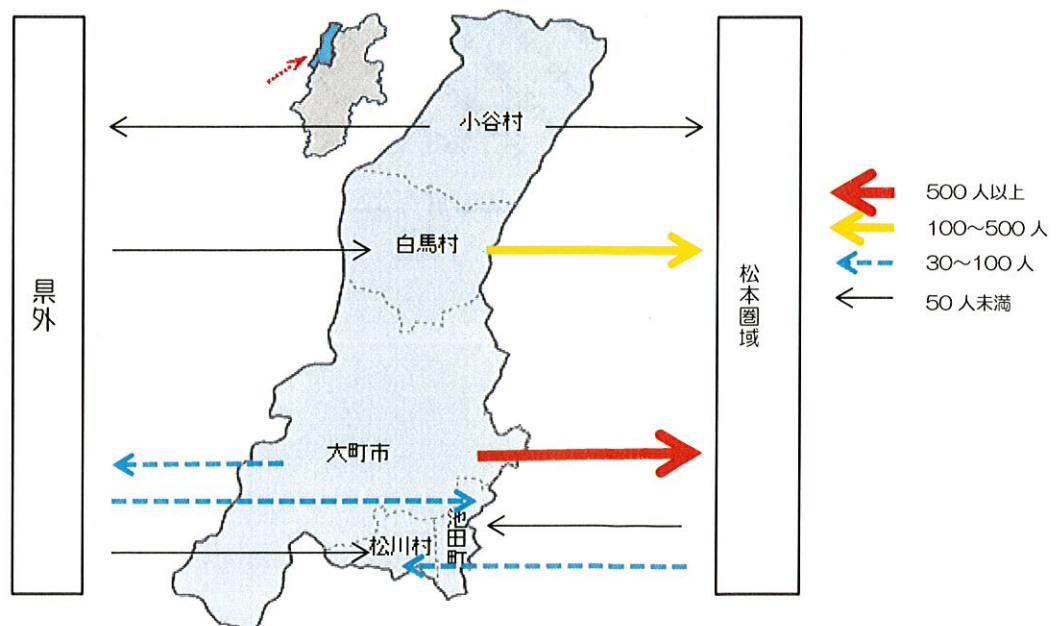
①大北圏域内の人口移動（平成17年～平成22年）

圏域内の人口動態は、北部エリア（小谷村・白馬村）から南部エリア（大町市・池田町・松川村）へ移動する傾向を示しています。しかし、大町市から池田町・松川村への人口流出も比較的大きく示しています。



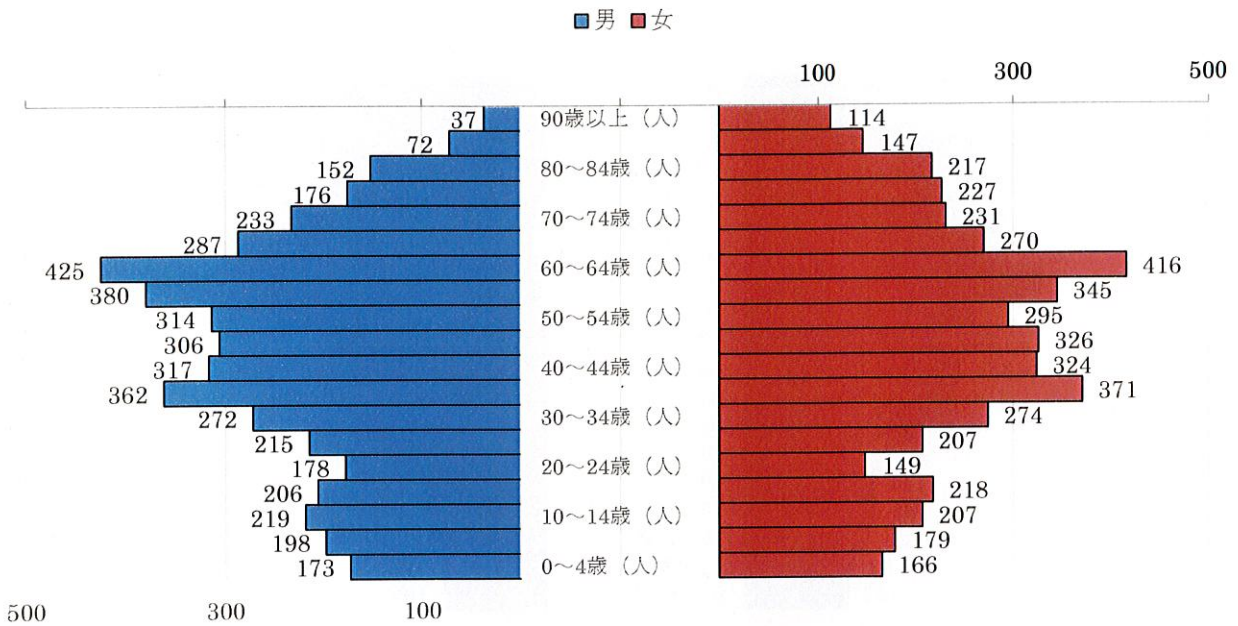
②大北圏域外の人口移動

池田町・松川村は県外・松本圏域からの流入がある一方、大町市・小谷村は流出するなど、北部と南部で人口動態二極化しています。とりわけ大町市から松本圏域・県外への流出が多く、大北圏域の人口ダム機能が十分発揮されていない様子がうかがえます。

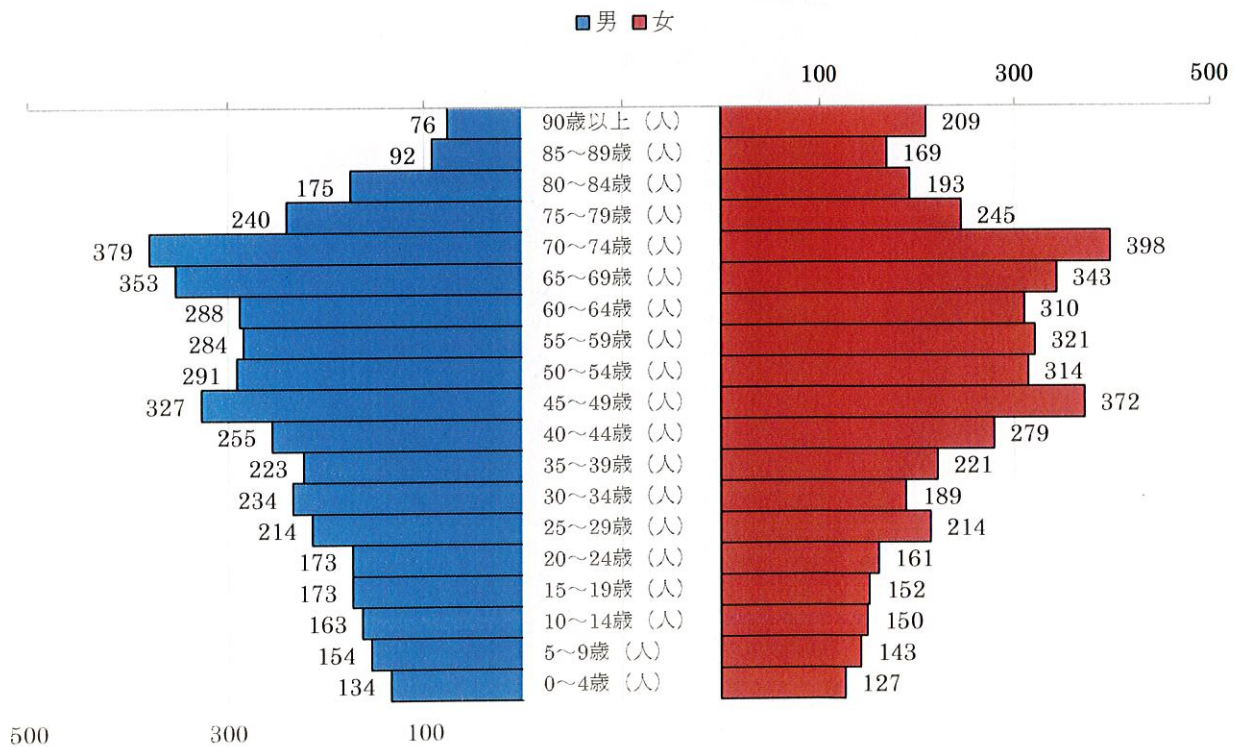


キ 年齢階級・男女別の人口構成

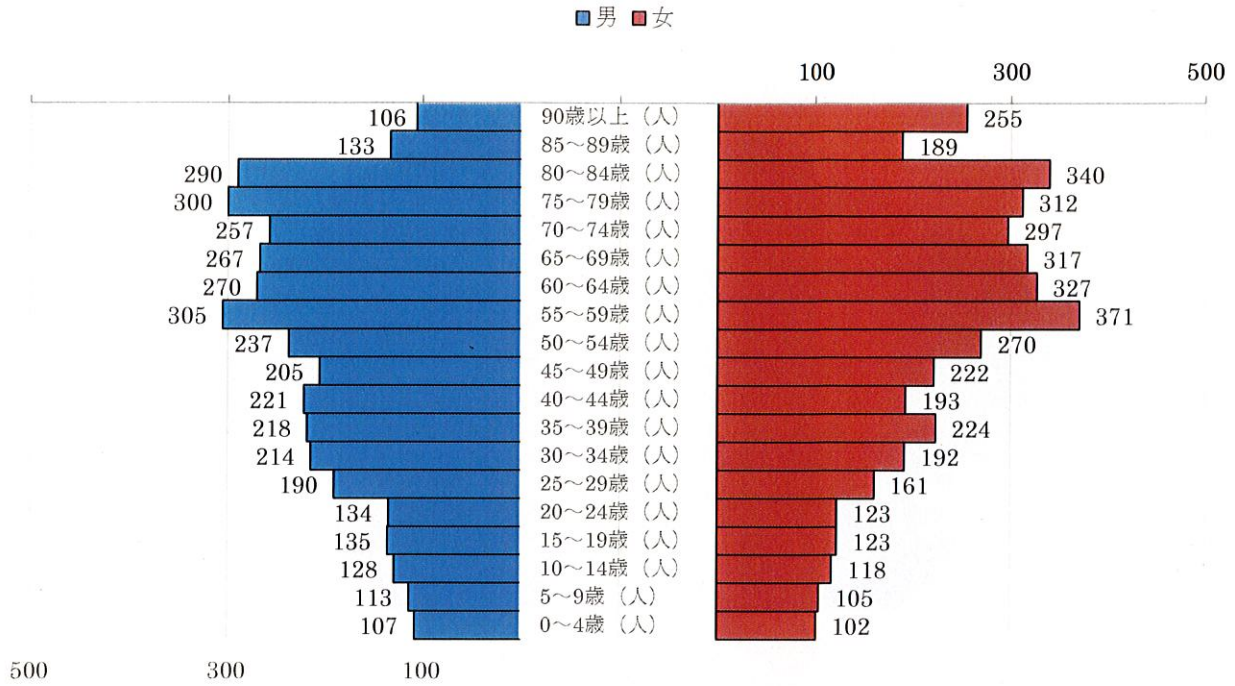
2010年白馬村人口ピラミッド



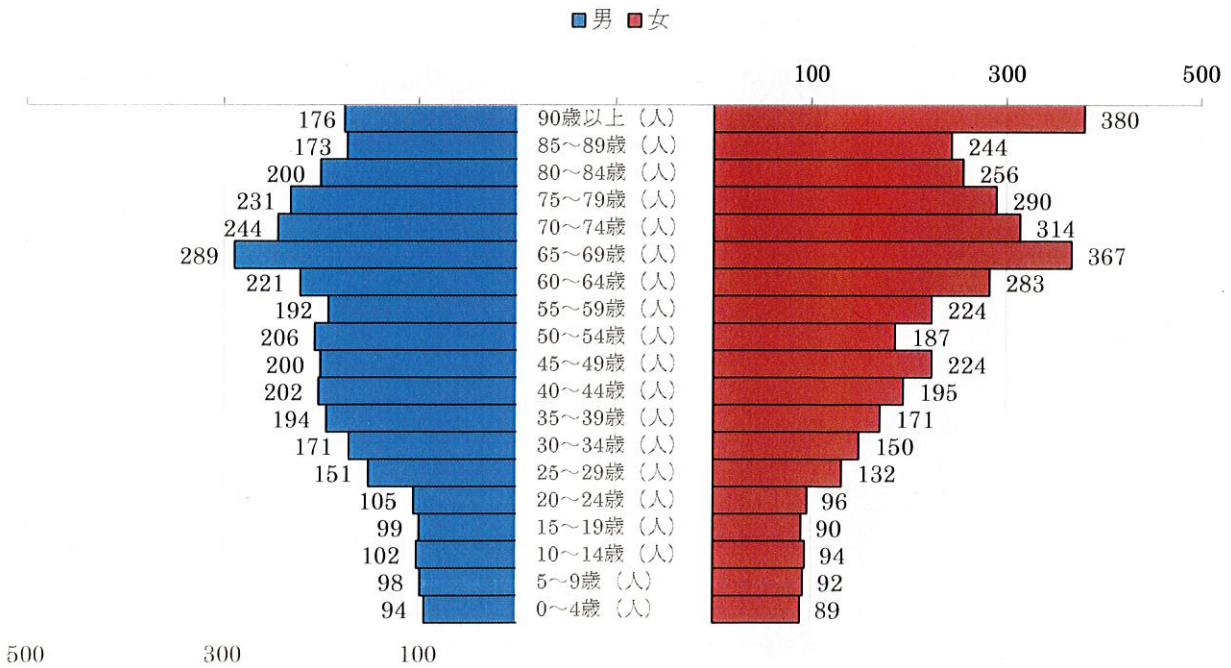
2020白馬村人口ピラミッド



2030白馬村人口ピラミッド



2040年白馬村人口ピラミッド

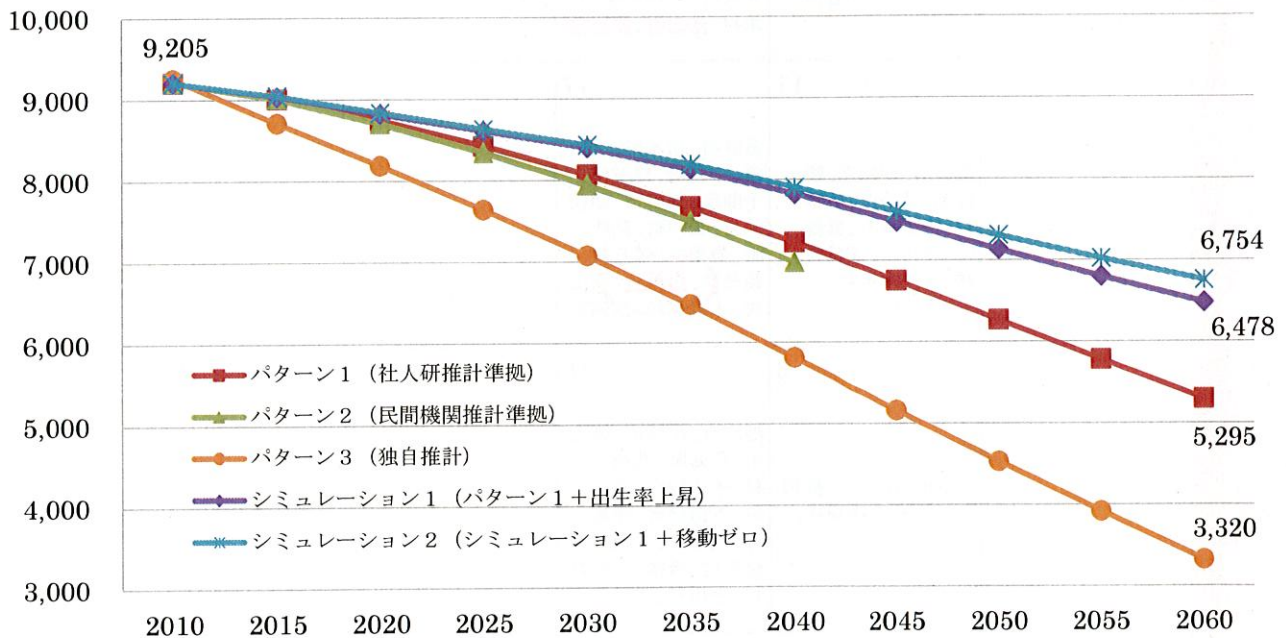


(2) 将来人口の推計と分析

ア 将来人口推計

出生ゼロ・流出入均衡を想定したパターン3の最下位曲線と他の類型とのギャップが比較的大きいこと、出生率上昇・流入均衡を想定したシミュレーション（以下、「シミュレ」という。）2と出生率上昇のみを想定したシミュレ1が相似していることから、人口流出の影響より出生率の影響が将来人口に与える影響が大きいかを示唆しています。シミュレ1・2の水準は比較的高く、人口対策次第で現状に近い人口規模を維持することが期待できる余地があります。

将来人口推計（類型別比較）



各類型の設定条件	内容
パターン1 (基本線)	<ul style="list-style-type: none"> 出生 子ども女性比 (CWR: 基準年次の0~4歳男女別人口÷15~49歳女性人口) ⇒ 現状の水準で推移 死亡 生存率 (S: 5年後の男女・年齢別 (5歳階級別) 生存率) ⇒ 現状の水準で推移 移動 純移動率 (NW: 基準年次とその5年前からの社会動態による純移動率) ⇒ 現状の0.5倍で推移 (緩和)
パターン2	<ul style="list-style-type: none"> 出生 子ども女性比 (CWR) ⇒ パターン1と同じ 死亡 生存率 (S) ⇒ パターン1と同じ 移動 純移動率 (NW) ⇒ 現状の1.0倍で推移 (現状と同水準)
シミュレ1	<ul style="list-style-type: none"> 出生 パターン1の子ども女性比 (CWR) を基本に、合計特殊出生率 (TFR) を人口置換水準2.1に引き上げて推移 死亡 パターン1と同じ (但し、TFR2.1設定によって死亡数の影響は相殺される) 移動 パターン1と同じ
シミュレ2	<ul style="list-style-type: none"> 出生 パターン1の子ども女性比 (CWR) を基本に、合計特殊出生率 (TFR) を人口置換水準2.1に引き上げて推移 死亡 パターン1と同じ (但し、TFR2.1設定によって死亡数の影響は相殺される) 移動 純移動率 (NW) がゼロ (流入出が±0の移動均衡状態)
パターン3	<ul style="list-style-type: none"> 出生 合計特殊出生率 (TFR) がゼロ (出生数ゼロ) 死亡 パターン1と同じ (但し、TFR0設定なので死亡数の影響あり) 移動 純移動率 (NW) がゼロ (流入出が±0の移動均衡状態)

イ 将来人口に及ぼす自然増減・社会増減の影響度の分析

影響度の計算と5段階整理	【自然増減の影響度】 「シミュレ1の平成52年(2040)の総人口」÷「パターン1の平成52年(2040)の総人口」の数値に応じ、次の5段階に整理 「1」=100%未満、「2」=100~105%、「3」=105~110%、「4」=110~115%、「5」=115%以上
	【社会増減の影響度】 「シミュレ2の平成52年(2040)の総人口」÷「シミュレ1の平成52年(2040)の総人口」の数値に応じ、次の5段階に整理 「1」=100%未満、「2」=100~110%、「3」=110~120%、「4」=120~130%、「5」=130%以上

		自然増減の影響度(2040)					総計
		1	2	3	4	5	
社会増減の影響度(2040)	1	2	6	7	1	0	16 20.8%
		川上村、下條村	南牧村、原村、南箕輪村、高森町、平谷村、山形村	佐久市、安曇野市、軽井沢町、御代田町、売木村、 池田町 、 松川村	麻績村		
	2		11	17	0	0	28 36.4%
			飯田市、伊那市、駒ヶ根市、茅野市、青木村、富士見町、箕輪町、中川村、宮田村、喬木村、木祖村	長野市、松本市、上田市、中野市、塩尻市、千曲市、東御市、南相木村、松川町、阿南町、 泰阜村 、 豊丘村 、朝日村、 白馬村 、高山村、木島平村、飯綱町			
	3		6	16			22 28.6%
			岡谷市、須坂市、長和町、辰野町、根羽村、小布施町	諏訪市、小諸市、飯山市、小海町、北相木村、佐久穂町、立科町、下諏訪町、飯島町、阿智村、生坂村、筑北村、坂城町、信濃町、小川村、栄村			
	4		3	5			8 10.4%
		上松町、南木曾町、木曾町	太田市 、天龍村、大鹿村、山ノ内町、野沢温泉村				
5		1	2			3 3.9%	
		小谷村	王滝村、大桑村				
総計	2	27	47	1	0	77	
	2.6%	35.1%	61.0%	1.3%	0.0%		

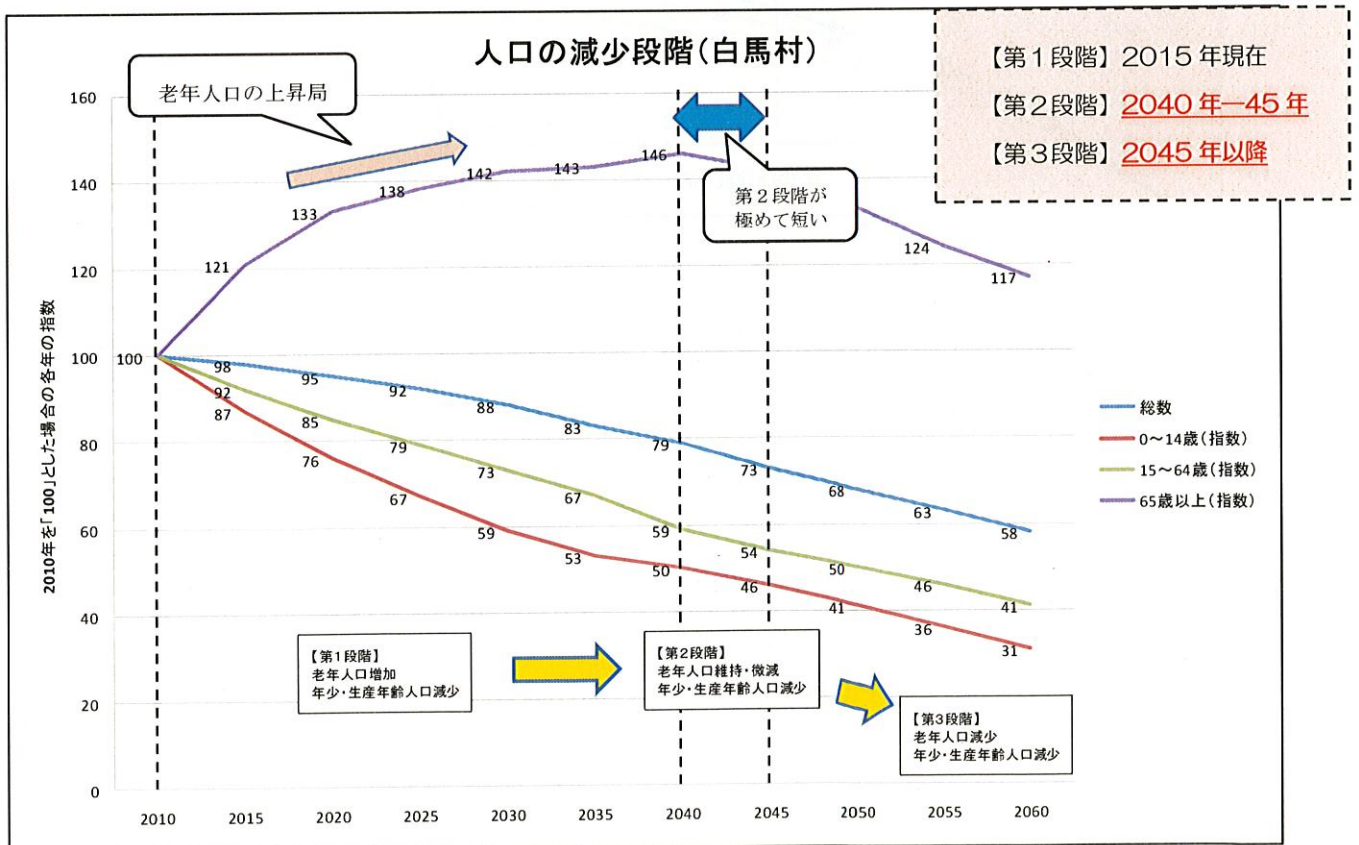
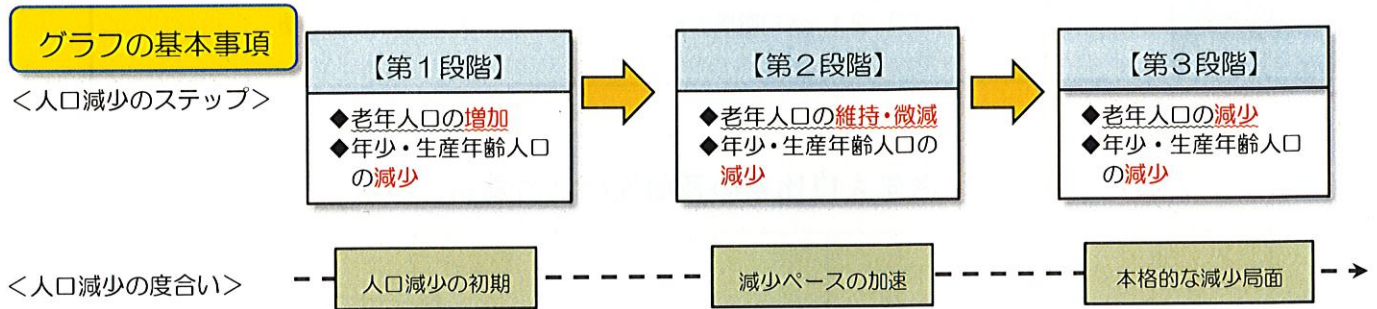
白馬は、北アルプスを中心とした山岳観光地として全国的な知名度が高く、流入人口が一定程度見込まれるため、社会増減の影響は比較的受けにくいと考えます。

一方、自然増減の易経を受け易いのは、流入人口の高齢化や人口構造の高齢層への偏在等が自然増の伸び悩みに繋がっています。

ウ 人口減少段階の分析

年少・生産年齢人口の下降カーブは他の地域同様であるが、老年人口が大幅かつ比較的長期にわたり上昇推移する点が特徴的で、老年人口の構成割合が次第に高まっていく様子が伺えます（第1段階）。

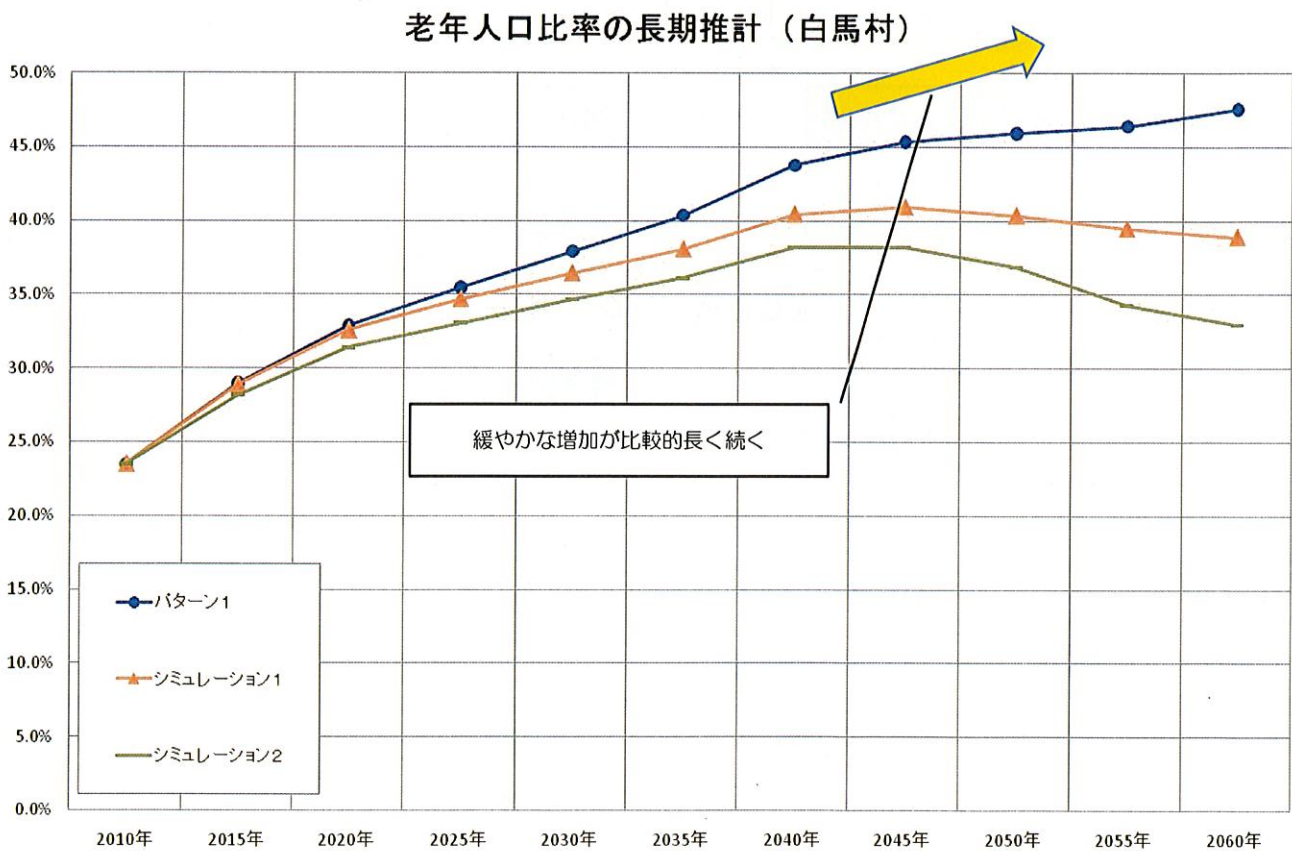
2040年に老年人口に減少の兆しが見え始め（第2段階）、その後、極めてわずかな期間で老年人口の減少を伴う本格的な総人口減少局面に突入します（第3期）。



エ 老年人口比率の変化

出生率の上昇による年少人口の増加や、流入人口の増加が図られれば、老年人口比率の上昇をある程度抑制させることができ、本村は、老年人口割合の増加基調が比較的長いことから、若年層流入人口の増加対策や出生率上昇対策を同時に進める必要があります。

各類型の 設定条件 (簡易表)	【パターン1(青)】 CWR「一」 / S「一」 / NM：現状の0.5倍 <基本線>
	【シミュレ1(橙)】 TFR：2.1(人口置換水準) / S「一」 / NM「一」
	【シミュレ2(緑)】 TFR：2.1(人口置換水準) / S「一」 / NM：ゼロ均衡



3 人口の将来展望

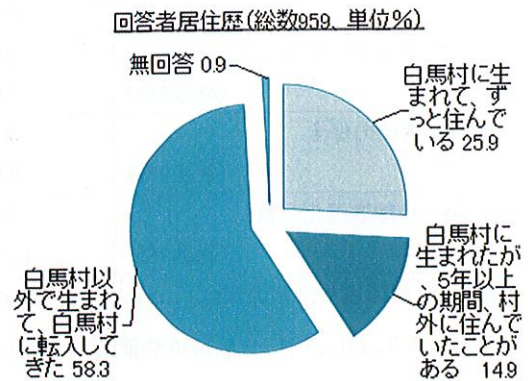
(1) 将来展望に必要な調査・分析

人口ビジョン・総合戦略の策定にあたり、平成27年3月に実施した第5次総合計画策定のための住民アンケートを活用し、分析を行いました。

調査対象	20歳以上の村民2,000人（男女各1,000人）を無作為抽出
調査方法	郵送により調査票を配布、郵送により回収
回収票数	959通
回収率	48.0%

・白馬村にどのくらいお暮らしですか？（お住まいの経歴）

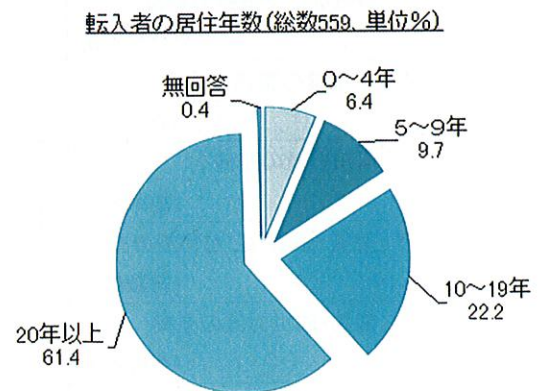
	回答数	割合(%)
白馬村に生まれて、ずっと住んでいる	248	25.9
白馬村に生まれたが、5年以上の期間、村外に住んでいたことがある	143	14.9
白馬村以外で生まれて、白馬村に転入してきた	559	58.3
無回答	9	0.9
回答者総数(%ベース)	959	100



○「白馬村以外で生まれて、白馬村に転入してきた」とする人が58.3%(559人)と半数を超えています。「白馬村に生まれて、ずっと住んでいる」人が25.9%(248人)、「白馬村に生まれたが、5年以上の期間、村外に住んでいたことがある」人が14.9%(143人)です。

・転入された方は、白馬村に住んで何年になりますか？（累計）

	回答数	割合(%)
0～4年	36	6.4
5～9年	54	9.7
10～19年	124	22.2
20年以上	343	61.4
無回答	2	0.4
回答者総数(%ベース)	559	100



○転入者のうち、「20年以上」居住している人が61.4%(343人)と半数を超え、次いで「10～19年」が22.2%(124人)、「5～9年」が9.7%(54人)となっています。

・あなたが感じている白馬村の「満足度」についてお答えください。各項目について、該当する番号を1つずつ選んでください。

分野	項目	満足度(上段:回答数/下段:割合(%))					無回答
		不満	やや不満	どちらとも いけない	やや満足	満足	
環境保全	ア. 自然環境や景観の保全 (総数959)	68 7.1	156 16.3	266 27.7	339 35.3	121 12.6	9 0.9
	イ. 美化運動の推進 (総数959)	61 6.4	214 22.3	424 44.2	214 22.3	34 3.5	12 1.3
	ウ. 環境浄化対策(屋外広告、案内板、自販機設置規制等) (総数959)	75 7.8	190 19.8	443 46.2	197 20.5	39 4.1	15 1.6
	エ. 緑化事業の推進 (総数959)	63 6.6	175 18.2	510 53.2	159 16.6	35 3.6	17 1.8
	オ. 青少年への自然保護教室 (総数959)	73 7.6	202 21.1	543 56.6	99 10.3	20 2.1	22 2.3
	カ. 里山の保全 (総数959)	91 9.5	248 25.9	426 44.4	150 15.6	28 2.9	16 1.7
	キ. 地球温暖化対策 (総数959)	97 10.1	222 23.1	521 54.3	78 8.1	16 1.7	25 2.6

○満足度高い「自然環境や景観の保全」全体として、「どちらともいけない」が40～50%台を占め、これに「やや不満」が20%台で続いています。これに対し、「ア. 自然環境や景観の保全」では、「やや満足」35.3%(339人)が最も多く、これに「どちらともいけない」が27.7%(266人)と続き、「満足」も12.6%(121人)と比較的高い値を示しています。また、「ウ. 環境浄化対策(屋外広告、案内板、自販機設置規制等)」は、「どちらともいけない」が46.2%(443人)で最も多く、「やや満足」が20.5%(197人)でこれに次ぎ、ともに全体として満足度が高いことが分かります。

分野	項目	満足度(上段:回答数/下段:割合(%))					無回答
		不満	やや不満	どちらとも いけない	やや満足	満足	
基盤整備・ 生活環境	ク. 身近な生活道路の整備 (総数959)	187 19.5	288 30.0	221 23.0	219 22.8	29 3.0	15 1.6
	ケ. 下水道の整備 (総数959)	93 9.7	129 13.5	325 33.9	270 28.2	131 13.7	11 1.1
	コ. 河川環境の整備 (総数959)	71 7.4	171 17.8	398 41.5	250 26.1	55 5.7	14 1.5
	サ. 除雪・融雪など雪対策の充実 (総数959)	88 9.2	179 18.7	227 23.7	343 35.8	111 11.6	11 1.1
	シ. 消防・防災対策の充実 (総数959)	42 4.4	117 12.2	391 40.8	329 34.3	67 7.0	13 1.4
	ス. 防犯灯など防犯対策 (総数959)	89 9.3	236 24.6	366 38.2	214 22.3	44 4.6	10 1.0
	セ. ごみの分別、リサイクル活動の推進 (総数959)	71 7.4	201 21.0	358 37.3	261 27.2	53 5.5	15 1.6

○「ク. 身近な生活道路の整備」で高い不満度 全体的に「どちらともいけない」が30～40%台で最も多くなっていますが、「ク. 身近な生活道路の整備」では「やや不満」が30.0%(288人)と最も高く、また「サ. 除雪・融雪など雪対策の充実」では「やや満足」が35.8%(343人)と最も高くなっています。

分野	項目	満足度(上段:回答数/下段:割合(%))					
		不満	やや不満	どちらとも いけない	やや満足	満足	無回答
健康・福祉・ 医療	ソ. 高齢者のための施設や制度 の充実 (総数959)	102 10.6	230 24.0	421 43.9	165 17.2	28 2.9	13 1.4
	タ. 障がいのある方のための施設 や制度の充実 (総数959)	95 9.9	245 25.5	515 53.7	78 8.1	12 1.3	14 1.5
	チ. 子育て支援制度や施設の充実 (総数959)	77 8.0	189 19.7	496 51.7	151 15.7	28 2.9	18 1.9
	ツ. 保健・医療体制や施設の充実 (総数959)	96 10.0	269 28.1	402 41.9	159 16.6	22 2.3	11 1.1
	テ. ボランティア活動の支援 (総数959)	39 4.1	149 15.5	614 64.0	115 12.0	24 2.5	18 1.9
	ト. 健康づくり制度 (総数959)	40 4.2	112 117.0	573 59.7	193 20.1	26 2.7	15 1.6
	ナ. バリアフリー化 (総数959)	105 10.9	268 27.9	499 52.0	52 5.4	15 1.6	20 2.1

○「健康づくり制度」で高い満足度 全体的に「どちらともいけない」が40～60%台、「やや不満」が20%台を占めていますが、このうち、「やや不満」の割合が高いのは「ツ. 保健・医療体制や施設の充実」28.1%(269人)、「ナ. バリアフリー化」27.9%(268人)などです。一方、「ト. 健康づくり制度」では20.1%(193人)が「やや満足」と答えています。

分野	項目	満足度(上段:回答数/下段:割合(%))					
		不満	やや不満	どちらとも いけない	やや満足	満足	無回答
教育・文化	ニ. 義務教育の教育環境の充実 (総数959)	44 4.6	107 11.2	525 54.7	227 23.7	35 3.6	21 2.2
	ヌ. 生涯学習を支援する制度や 施設の充実 (総数959)	52 5.4	198 20.6	521 54.3	147 15.3	17 1.8	24 2.5
	ネ. スポーツ活動を支援する制 度や施設の充実 (総数959)	68 7.1	199 20.8	424 44.2	218 22.7	30 3.1	20 2.1
	ノ. 文化活動、地域活動への支 援 (総数959)	51 5.3	179 18.7	547 57.0	142 14.8	20 2.1	20 2.1
	ハ. 文化財の保護や保存 (総数959)	44 4.6	151 15.7	594 61.9	122 12.7	28 2.9	20 2.1
	ヒ. 家庭や地域内での子どもへ の教育 (総数959)	49 5.1	171 17.8	585 61.0	110 11.5	21 2.2	23 2.4

○「スポーツ活動を支援する制度や施設の充実」では評価が分かれる 全体的に「どちらともいけない」が半数を超えていますが、「やや満足」では「ニ. 義務教育の教育環境の充実」が23.7%(227人)と高い半面、特に「ヌ. 生涯学習を支援する制度や施設の充実」で「やや不満」が20.6%(198人)と高く、また、「ネ. スポーツ活動を支援する制度や施設の充実」では、「どちらともいけない」が44.2%(424人)が比較的低い半面、「やや満足」が22.7%(218人)、「やや不満」が20.8%(199人)と評価が大きく分かれる結果となっています。

分野	項目	満足度(上段:回答数/下段:割合(%))					
		不満	やや不満	どちらとも いけない	やや満足	満足	無回答
産業・観光	フ. 特産品開発と生産振興 (総数959)	133 13.9	305 31.8	381 39.7	110 11.5	13 1.4	17 1.8
	ヘ. 観光産業の振興 (総数959)	133 13.9	274 28.6	378 39.4	137 14.3	15 1.6	22 2.3
	ホ. 観光・レクリエーション等の 拠点整備 (総数959)	150 15.6	297 31.0	370 38.6	110 11.5	11 1.1	21 2.2
	マ. 観光宣伝活動 (総数959)	114 11.9	223 23.3	427 44.5	153 16.0	22 2.3	20 2.1
	ミ. インバウンド対策 (総数959)	61 6.4	167 17.4	555 57.9	120 12.5	21 2.2	35 3.6
	ム. 各種イベントの開催 (総数959)	80 8.3	169 17.6	520 54.2	145 15.1	24 2.5	21 2.2

○不満度が高い「特産品開発と生産振興」と「観光・レクリエーション等の拠点整備」

全体的に「どちらともいけない」が40～50%を占め、これに「やや不満」が続いていますが、特に不満度が高いのが「フ. 特産品開発と生産振興」と「ホ. 観光・レクリエーション等の拠点整備」です。いずれも「不満」「やや不満」を合わせると約46%になります。同様に「観光産業の振興」も不満が40%を超えます。

分野	項目	満足度(上段:回答数/下段:割合(%))					
		不満	やや不満	どちらとも いけない	やや満足	満足	無回答
行政・住民 参加	メ. 男女が平等に参加できる社 会づくり (総数959)	54 5.6	159 16.6	560 58.4	136 14.2	27 2.8	23 2.4
	モ. 情報化への対応 (総数959)	80 8.3	246 25.7	497 51.8	101 10.5	12 1.3	23 2.4
	ヤ. 住民参加によるまちづくりの 推進 (総数959)	74 7.7	238 24.8	533 55.6	80 8.3	11 1.1	23 2.4
	ユ. 情報公開の推進 (総数959)	95 9.9	210 21.9	537 56.0	82 8.6	13 1.4	22 2.3
	ヨ. 地区に対する支援制度 (総数959)	84 8.8	234 24.4	507 52.9	101 10.5	13 1.4	20 2.1

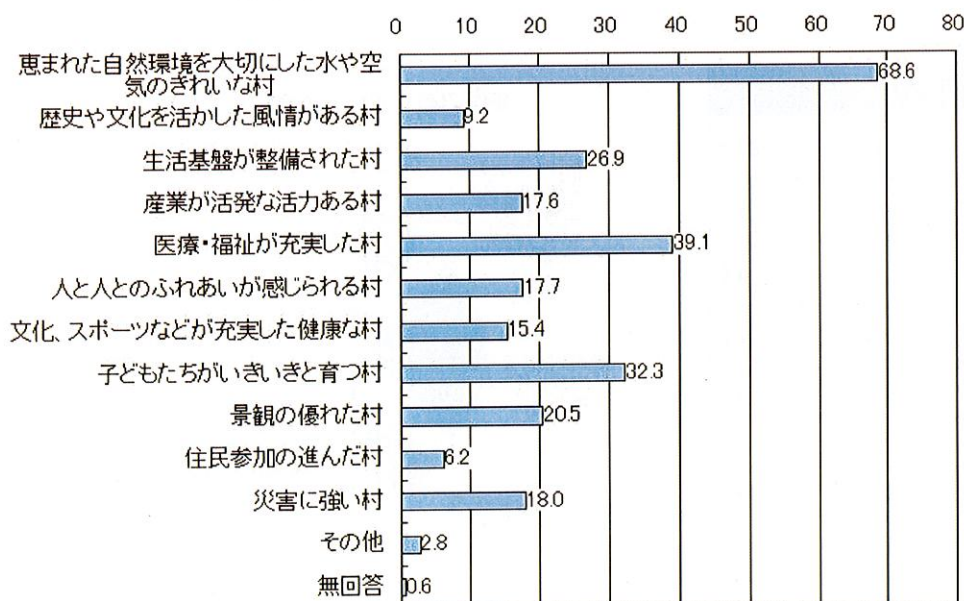
○「情報化への対応」で不満度が高い

いずれも「どちらともいけない」が50%台で、これに「やや不満」が続いています。このうち、「不満」「やや不満」を合わせた割合が最も高いのが、「モ. 情報化への対応」34%(326人)です。

・あなたが望む将来の白馬村は、どのような村ですか？（該当するもの3つまで）

	回答数	割合(%)
恵まれた自然環境を大切にされた水や空気のきれいな村	658	68.6
歴史や文化を活かした風情がある村	88	9.2
生活基盤が整備された村	258	26.9
産業が活発な活力ある村	169	17.6
医療・福祉が充実した村	375	39.1
人と人とのふれあいが感じられる村	170	17.7
文化、スポーツなどが充実した健康な村	148	15.4
子どもたちがいきいきと育つ村	310	32.3
景観の優れた村	197	20.5
住民参加の進んだ村	59	6.2
災害に強い村	173	18.0
その他	27	2.8
無回答	6	0.6
回答者総数(%ベース)	959	100

将来の白馬村について(総数959、3つまで複数回答、単位%)



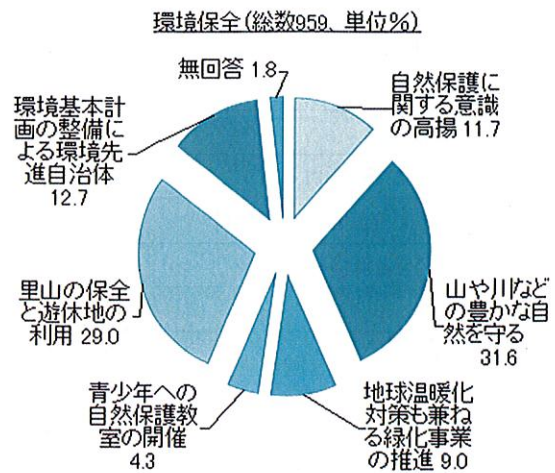
○圧倒的に「恵まれた自然環境を大切にされた水や空気のきれいな村」

「恵まれた自然環境を大切にされた水や空気のきれいな村」が圧倒的に高く68.6%(658人)、これに「医療・福祉が充実した村」39.1%(375人)、「子どもたちがいきいきと育つ村」32.3%(310人)、「生活基盤が整備された村」26.9%(258人)などが続いています。

・あなたが望む白馬村となるためには、どのようなことに特に力を入れたらよいと思いますか？

[環境保全]

	回答数	割合(%)
自然保護に関する意識の高揚	112	11.7
山や川などの豊かな自然を守る	303	31.6
地球温暖化対策も兼ねる緑化事業の推進	86	9.0
青少年への自然保護教室の開催	41	4.3
里山の保全と遊休地の利用	278	29.0
環境基本計画の整備による環境先進自治体	122	12.7
無回答	17	1.8
回答者総数(%ベース)	959	100

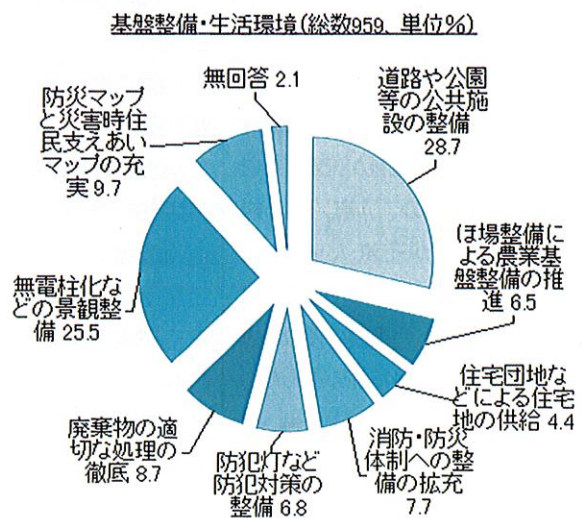


○豊かな自然を守り、かつ、遊休地を利用

「山や川などの豊かな自然を守る」が31.6%(303人)と「里山の保全と遊休地の利用」29.0%(278人)が拮抗し、これらに「環境基本計画の整備による環境先進自治体」12.7%(122人)、「自然保護に関する意識の高揚」11.7%(112人)などが続いています。

[基盤整備・生活環境]

	回答数	割合(%)
道路や公園等の公共施設の整備	275	28.7
ほ場整備による農業基盤整備の推進	62	6.5
住宅団地などによる住宅地の供給	42	4.4
消防・防災体制への整備の拡充	74	7.7
防犯灯など防犯対策の整備	65	6.8
廃棄物の適切な処理の徹底	83	8.7
無電柱化などの景観整備	245	25.5
防災マップと災害時住民支えあいマップの充実	93	9.7
無回答	20	2.1
回答者総数(%ベース)	959	100



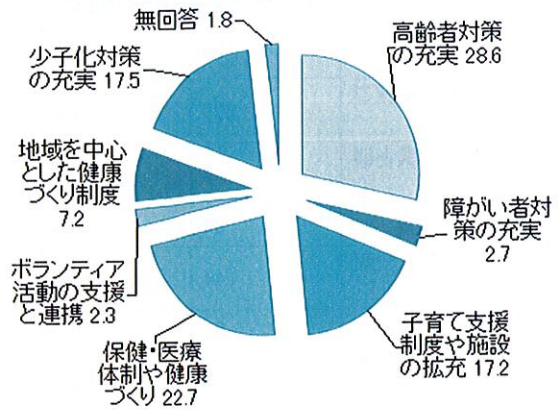
○道路・公園など公共施設の整備と景観整備

「道路や公園等の公共施設の整備」が28.7%(275人)と最も多く、次いで「無電柱化などの景観整備」25.5%(245人)、「防災マップと災害時住民支えあいマップの充実」9.7%(93人)などが続いています。

[健康・福祉・医療]

	回答数	割合(%)
高齢者対策の充実	274	28.6
障がい者対策の充実	26	2.7
子育て支援制度や施設の拡充	165	17.2
保健・医療体制や健康づくり	218	22.7
ボランティア活動の支援と連携	22	2.3
地域を中心とした健康づくり制度	69	7.2
少子化対策の充実	168	17.5
無回答	17	1.8
回答者総数(%ベース)	959	100

健康・福祉・医療(総数959、単位%)



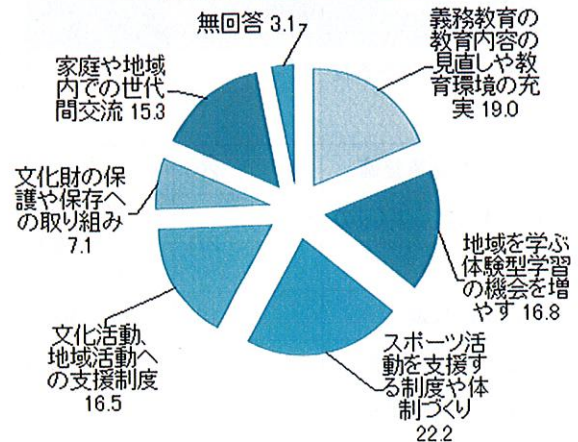
○高齢者対策と少子化対策・子育て支援

「高齢者対策の充実」が28.6%(274人)と最も多く、これに「保健・医療体制や健康づくり」22.7%(218人)、「少子化対策の充実」17.5%(168人)、「子育て支援制度や施設の拡充」17.2%(165人)などが続いています。

[教育・文化]

	回答数	割合(%)
義務教育の教育内容の見直しや教育環境の充実	182	19.0
地域を学ぶ体験型学習の機会を増やす	161	16.8
スポーツ活動を支援する制度や体制づくり	213	22.2
文化活動、地域活動への支援制度	158	16.5
文化財の保護や保存への取り組み	68	7.1
家庭や地域内での世代間交流	147	15.3
無回答	30	3.1
回答者総数(%ベース)	959	100

教育・文化(総数959、単位%)

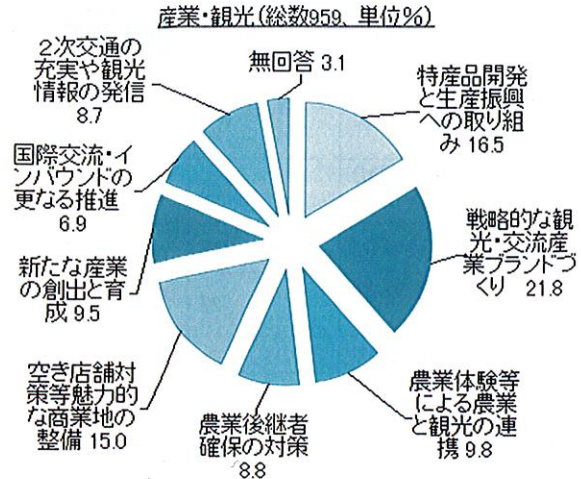


○全体に意見・要望が分散

全体に意見・要望が分散しています。「スポーツ活動を支援する制度や体制づくり」22.2%(213人)、「義務教育の教育内容の見直しや教育環境の充実」19.0%(182人)、「地域を学ぶ体験型学習の機会を増やす」16.8%(161人)、「文化活動、地域活動への支援制度」16.5%(158人)などが上位にあります。

[産業・観光]

	回答数	割合(%)
特産品開発と生産振興への取り組み	158	16.5
戦略的な観光・交流産業ブランドづくり	209	21.8
農業体験等による農業と観光の連携	94	9.8
農業後継者確保の対策	84	8.8
空き店舗対策等魅力的な商業地の整備	144	15.0
新たな産業の創出と育成	91	9.5
国際交流・インバウンドの更なる推進	66	6.9
2次交通の充実や観光情報の発信	83	8.7
無回答	30	3.1
回答者総数(%ベース)	959	100

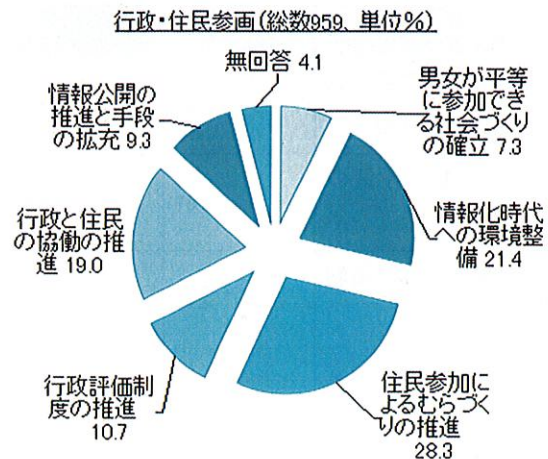


○戦略的なブランドづくりと特産品開発が重要

「戦略的な観光・交流産業ブランドづくり」が21.8%(209人)が最も多く、次いで「特産品開発と生産振興への取り組み」16.5%(158人)、「空き店舗対策等魅力的な商業地の整備」15.0%(144人)と続いています。

[行政・住民参画]

	回答数	割合(%)
男女が平等に参加できる社会づくりの確立	70	7.3
情報化時代への環境整備	205	21.4
住民参加によるむらづくりの推進	271	28.3
行政評価制度の推進	103	10.7
行政と住民の協働の推進	182	19.0
情報公開の推進と手段の拡充	89	9.3
無回答	39	4.1
回答者総数(%ベース)	959	100



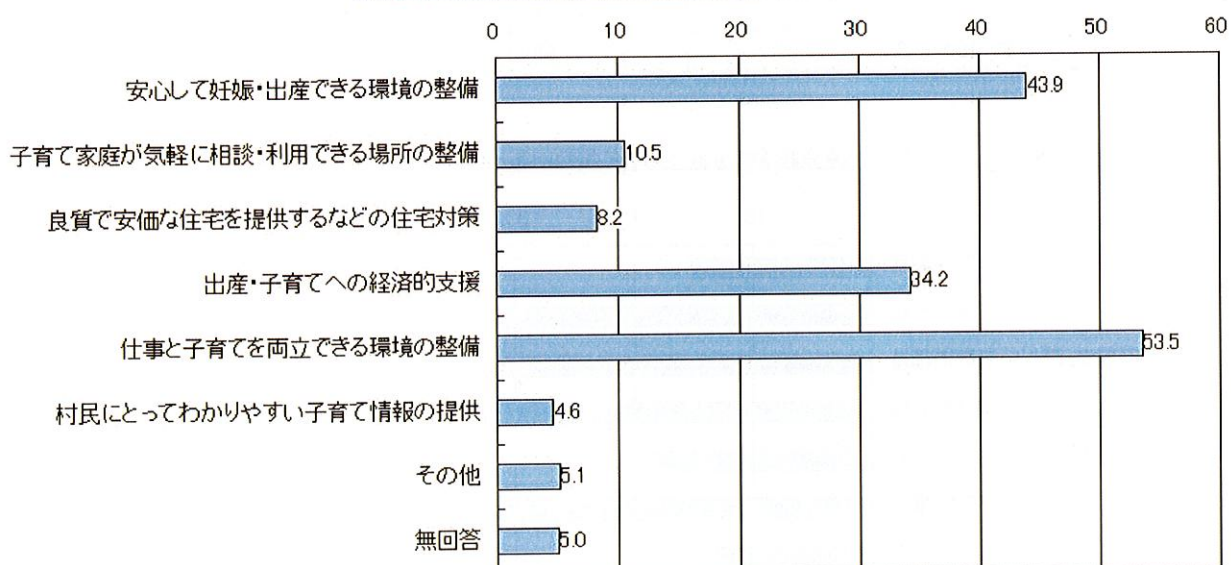
○住民参加によるむらづくりを推進

「住民参加によるむらづくりの推進」が28.3%(271人)と最も多く、次いで「情報化時代への環境整備」21.4%(205人)、「行政と住民の協働の推進」19.0%(182人)と続いています。

・全国的に少子化が問題となっていますが、少子化対策として最も有効と思われるものは何ですか？（該当するもの2つまで）

	回答数	割合(%)
安心して妊娠・出産できる環境の整備	421	43.9
子育て家庭が気軽に相談・利用できる場所の整備	101	10.5
良質で安価な住宅を提供するなどの住宅対策	79	8.2
出産・子育てへの経済的支援	328	34.2
仕事と子育てを両立できる環境の整備	513	53.5
村民にとってわかりやすい子育て情報の提供	44	4.6
その他	49	5.1
無回答	48	5.0
回答者総数(%ベース)	959	100

有効な少子化対策(総数959、2つまで複数回答、単位%)



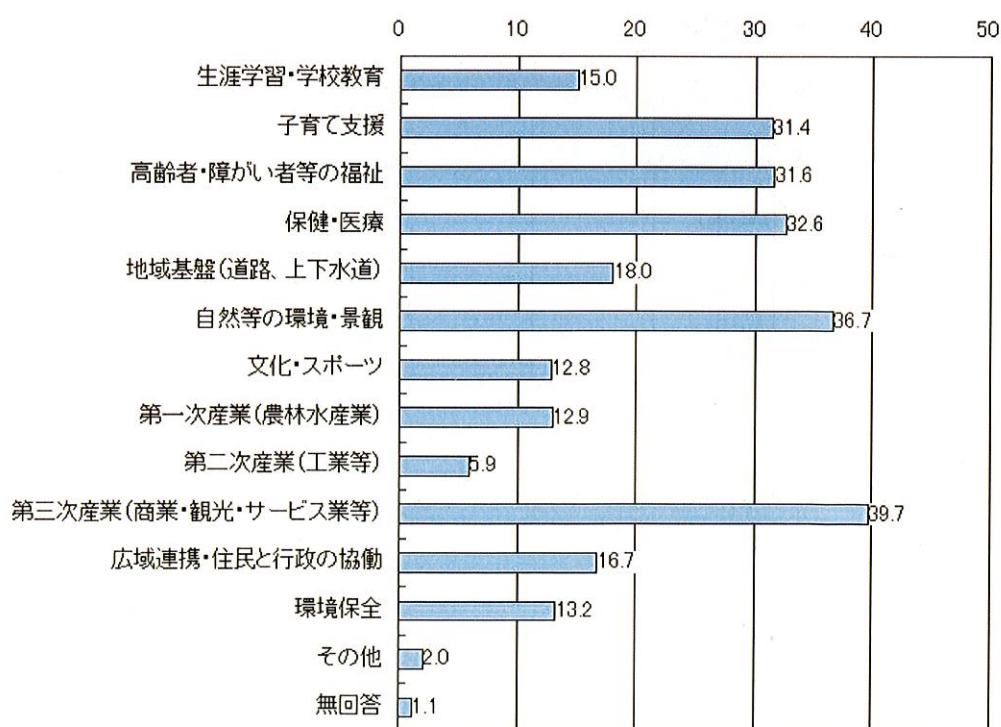
○仕事と子育ての両立が過半数

「仕事と子育てを両立できる環境の整備」が53.5%(513人)と最も多く、次いで、「安心して妊娠・出産できる環境の整備」43.9%(421人)、「出産・子育てへの経済的支援」34.2%(328人)などとなっています。

・これからの時代、地域自らが、地域の将来を考え、実行していくことの重要性が高まっています。まちづくりにはさまざまな分野がありますが、あなたは、白馬村が今後、より一層活性化したり、いきいきとしていくためには、どんな分野に力を入れていくことが必要だと思いますか？（該当するもの3つまで）

	回答数	割合(%)
生涯学習・学校教育	144	15.0
子育て支援	301	31.4
高齢者・障がい者等の福祉	303	31.6
保健・医療	313	32.6
地域基盤(道路、上下水道)	173	18.0
自然等の環境・景観	352	36.7
文化・スポーツ	123	12.8
第一次産業(農林水産業)	124	12.9
第二次産業(工業等)	57	5.9
第三次産業(商業・観光・サービス業等)	381	39.7
広域連携・住民と行政の協働	160	16.7
環境保全	127	13.2
その他	19	2.0
無回答	11	1.1
回答者総数(%ベース)	959	100

今後、村が力を入れてゆべき分野(総数959、3つまで複数回答、単位%)



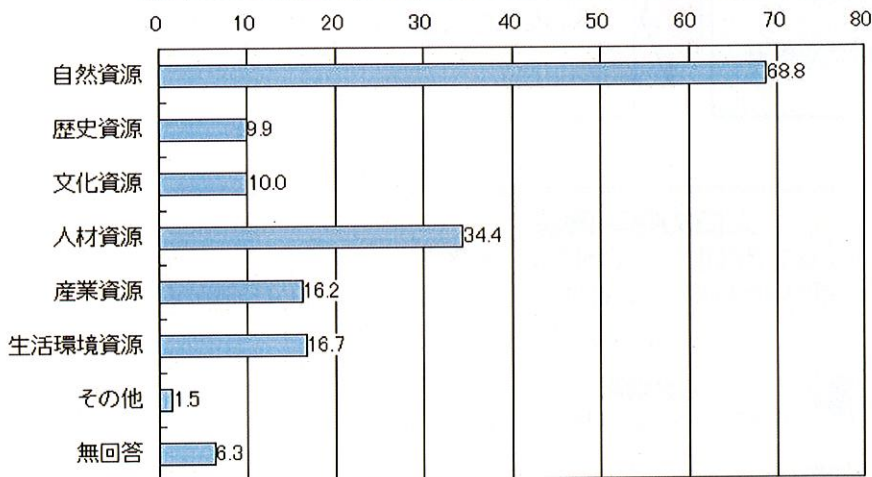
○第三次産業(商業・観光・サービス業等)の振興

「第三次産業」が39.7%(381人)と最も多く、次いで、「自然等の環境・景観」36.7%(352人)、以下、僅差で「保健・医療」「高齢者・障がい者等の福祉」「子育て支援」が続いています。

・白馬村ならではの地域づくりを進めていくため、有効活用すべき地域資源、埋もれている要素などがありますか？（該当するもの2つまで）

	回答数	割合(%)
自然資源	660	68.8
歴史資源	95	9.9
文化資源	96	10.0
人材資源	330	34.4
産業資源	155	16.2
生活環境資源	160	16.7
その他	14	1.5
無回答	60	6.3
回答者総数(%ベース)	959	100

有効活用すべき地域資源(総数959、2つまで複数回答、単位%)



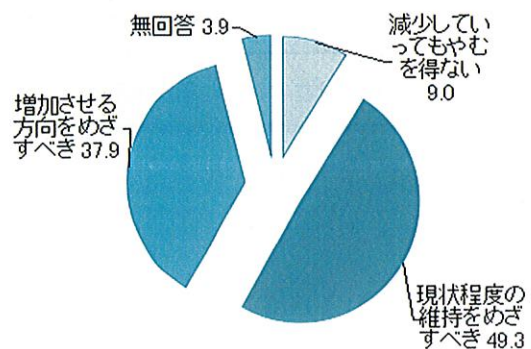
○圧倒的に自然資源

「自然資源」が68.8%(660人)と圧倒的に高く、次いで「人材資源」34.4%(330人)などとなっています。

・あなたは、白馬村の人口規模が将来、どのようになるのが望ましいと思いますか？（該当するもの1つ）

	回答数	割合(%)
減少していてもやむを得ない	86	9.0
現状程度の維持をめざすべき	473	49.3
増加させる方向をめざすべき	363	37.9
無回答	37	3.9
回答者総数(%ベース)	959	100

望ましい人口規模(総数959、単位%)



○約半数が現状維持

「現状程度の維持をめざすべき」が49.3%(473人)と約半数、次いで、「増加させる方向をめざすべき」37.9%(363人)となっています。

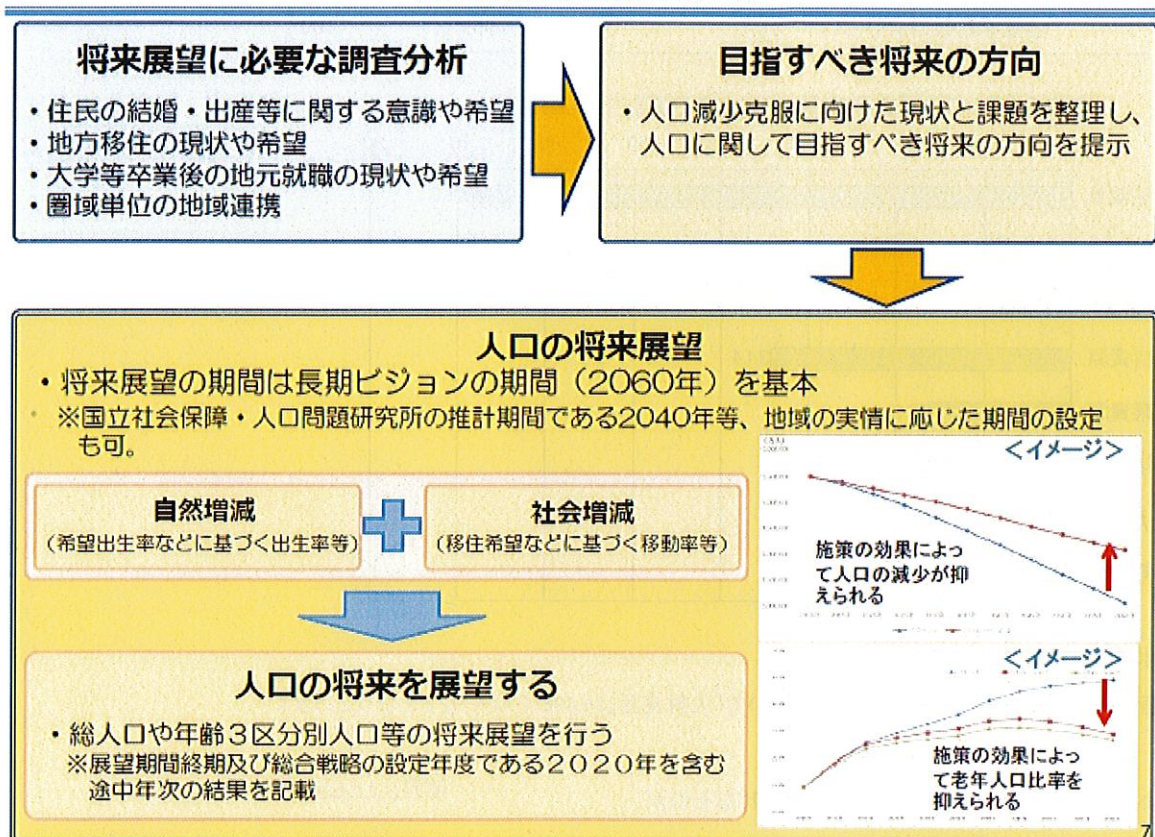
(2) 目指すべき将来の方向

人口減少克服に向けた現状と課題を整理し、人口に関して目指すべき将来の方向を記述します。

(3) 人口の将来展望

2060（平成 72）年を将来展望の期間とし、総人口や年齢3区分別の将来展望を提示します。

人口の将来展望のイメージ



「内閣官房まち・ひと・しごと創生本部事務局」資料

第2 総合戦略

1 基本的な考え方

(1) 総合戦略策定の目的

わが国では、平成20年をピークに人口減少が続いており、厚生労働省の国立社会保障・人口問題研究所における平成24年の将来推計人口では、平成72(2060)年の人口は8674万人、65歳以上の人口割合は39.9%とされています。

本村では、現在の人口約9000人が平成52(2040)年には約7000人まで減少する見込みであると同時に、日本創生会議が平成26年5月に発表した提言では「消滅可能性都市」に該当しており、人口の減少が経済活動の縮小やコミュニティ機能の低下など、住民生活の様々な分野に大きな影響を及ぼすものと懸念されているところでもあります。

こうした状況の中、国においては、人口減少時代の到来、東京への一極集中という課題に対応していくため、まち・ひと・しごと創生本部を設置し、地方創生によりこれらの課題を克服しながら、活力ある日本社会の維持、地方から日本の創生を目指すこととしました。

本村においても今後の人口減少に対応するとともに、住み良い環境を確保し、将来にわたって活力あるまちを維持するため、本村の実情を踏まえ「白馬村総合戦略」を策定します。

(2) 総合戦略の位置づけ

本村の総合戦略は、白馬村人口ビジョンを踏まえ、「まち・ひと・しごと創生」に関する分野における目標や基本的方向、具体的施策など定めるものです。

(3) 計画期間

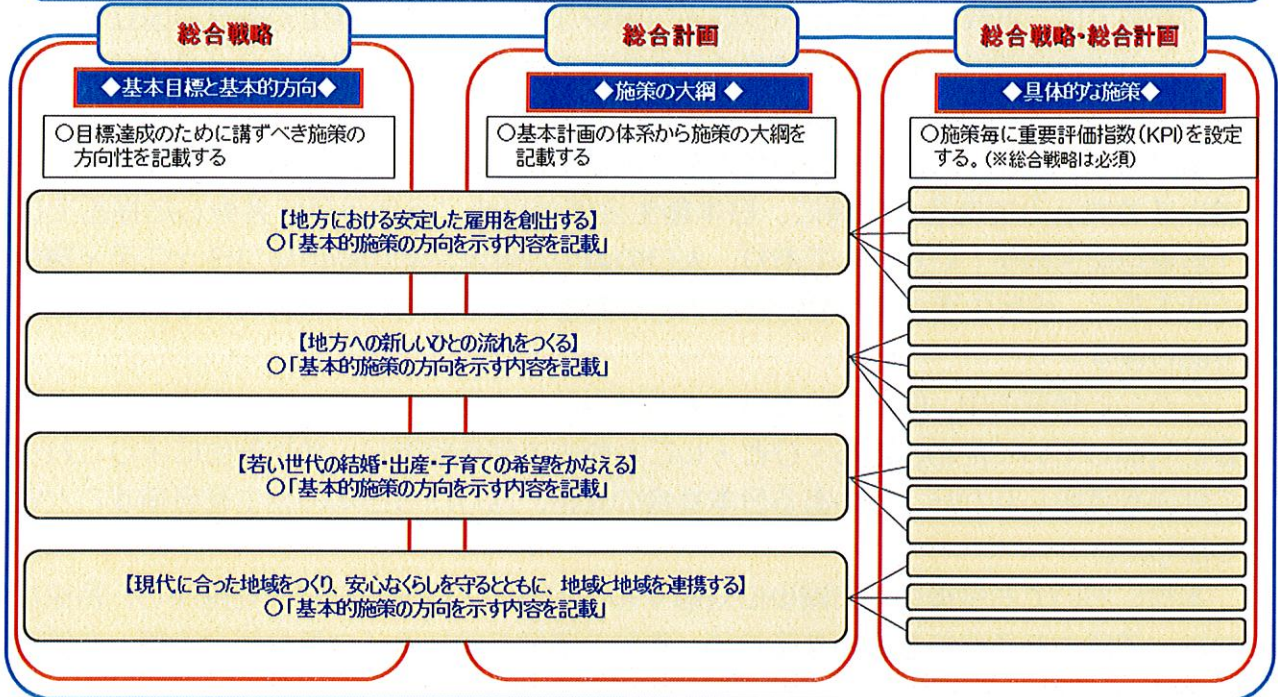
総合戦略の計画期間は、平成27年度から平成31年度までの5年間とします。

(4) 総合計画と総合戦略の関係

総合計画は、本村の最上位計画として、あらゆる政策分野における行政運営の基本理念や基本目標を定めるとともに、その実現に向けた基本的な施策の方向性を定めるもので、総合戦略の策定にあたっては、総合計画との整合を図り、総合計画と総合戦略との整合を図り、総合計画と総合戦略を連動させながら「まち・ひと・しごと創生」に向けて効果的かつ効率的な取り組むこととします。

中長期的展望 ■白馬村第5次総合計画(平成28年度～平成37年度) ■白馬村版総合戦略(平成27年度～平成31年度)

- I 人口の現状分析(人口動向や人口推計の分析) ⇒ ■総合計画(平成37年度、中間年度の平成32年度) ■総合戦略(平成31年度)
- II 人口の将来展望(目指すべき将来の方向性や施策の方向性を踏まえた人口の将来展望) = 目標指数
⇒ ■総合計画(平成37年度、中間年度の平成32年度) ■総合戦略(平成31年度)



(5) 計画期間の目標人口 ○○人 (審議会で検討いただきます。)

(6) PDCA サイクルの確立

「まち・ひと・しごと創生」を実現するためには、PDCA サイクルを確立することが必要不可欠であり、重要業績評価指標 (KPI) の設定により、効果の検証を行い、必要に応じ見直しを図ります。

2 基本方針

人口ビジョンに掲げる将来展望や目指すべき方向性について記述する。

3 基本目標

基本目標 1 地域における安定した雇用を創出する。 〈基本的方向〉 基本的方向について記述		
数値目標	基準値	目標値

基本目標 2 地域へ新しい人の流れをつくる。 〈基本的方向〉 基本的方向について記述		
数値目標	基準値	目標値

基本目標 3 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる。 〈基本的方向〉 基本的方向について記述		
数値目標	基準値	目標値

基本目標 4 時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する。 〈基本的方向〉 基本的方向について記述		
数値目標	基準値	目標値

4 施策の展開

基本目標 1 地域における安定した雇用を創出する。

基本施策 1		
重要業績評価指標 (KPI)	基準値	目標値
具体的な施策・主な取組み		

基本施策 2		
重要業績評価指標 (KPI)	基準値	目標値
具体的な施策・主な取組み		

基本施策 3		
重要業績評価指標 (KPI)	基準値	目標値
具体的な施策・主な取組み		

基本目標2 地域へ新しい人の流れをつくる。**基本施策1**

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	目標値
具体的な施策・主な取組み		

基本施策2

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	目標値
具体的な施策・主な取組み		

基本施策3

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	目標値
具体的な施策・主な取組み		

基本目標 3 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる。

基本施策 1

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	目標値
具体的な施策・主な取組み		

基本施策 2

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	目標値
具体的な施策・主な取組み		

基本施策 3

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	目標値
具体的な施策・主な取組み		

基本目標 4

時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する。

基本施策 1

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	目標値
具体的な施策・主な取組み		

基本施策 2 周辺自治体との多面的な連携

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	目標値
大北地域の新規広域事業件数	—	8件
具体的な施策・主な取組み		
<p>既存の取組みを含めて、より多面的に、周辺自治体と連携し取組みことで、より効果の発揮できる施策を見出し、連携の強化充実を図る。</p> <p>広域連合の充実強化、ミニ定住自立</p>		

基本施策 3

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	目標値
具体的な施策・主な取組み		

